

第 22 回公開県民講座



心臓血管外科 20 周年 循環器内科 PCI 30 周年記念講演会



近森病院副院長
 兼 心臓血管外科主任部長 入江 博之 (司会)

記念すべき年に 初のオンライン LIVE 配信も

表題の通り、今年も循環器系二つの診療科で記念すべき年となりました。元々は6月に開催を予定しておりましたが、ご存知のコロナの影響で延期となっております。10月24日(土)に高知県立県民文化ホールのオレンジホールを使用しました。コロナ禍の「密」を避けるために、

1000人以上収容の会場に200名限定で事前申し込み制とし、参加できなかった方や、遠方の方にはオンラインでライブ配信を行いました。

豪華な講師をお招きして

講演は、まずベルギー王立美術館公認解説者の森耕治先生に始めて頂きました。心臓血管外科と同じく今年20周年の高知県北川村モネの庭を中心に解説して頂きました。

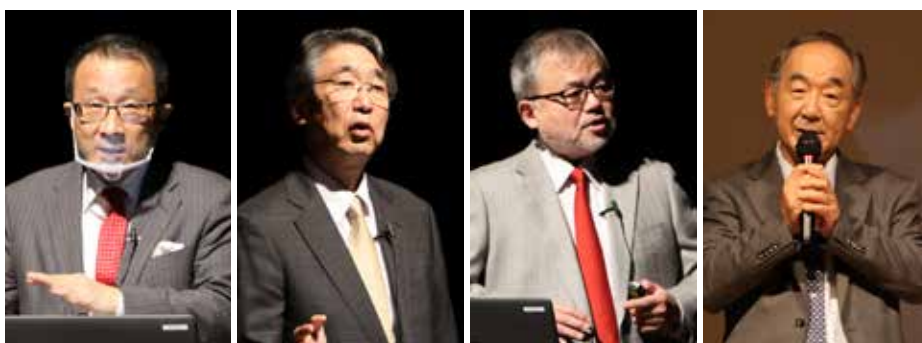
つぎに、当院の川井和哉より、循環器疾患及び当院のPCIに関する歴史と現状をお話頂きました。

そして大阪大学心臓血管外科の倉谷徹教授に、カテーテルによる大動脈、心臓の治療についてユーモアとウィットたっぷりにお話頂きました。

最後に、近森病院に循環器内科を立ち上げ、また、小生を招聘し、心臓血管外科を立ち上げることとなった浜重直久より、当院の循環器系治療の変遷について話して頂きました。

2時間があっという間の講演会でした。コロナの影響下で多くの方にご来場頂けなかったことが大変残念に思います。

次頁に続く



「モネの睡蓮池と
オレンジリー美術館」

「心臓発作との戦い
- 30年の軌跡」

「心臓、大血管手術は、
もうあなたを切りません
-近森病院でも大人気：
TEVAR, TAVIを紹介します-」

「ハートセンター長より
ご挨拶」

ベルギー王立美術館
公認解説者
森 耕治 先生

近森病院副院長
兼循環器内科主任部長
川井 和哉

大阪大学心臓血管外科学
教授 倉谷 徹 先生

近森病院
ハートセンター長
浜重 直久



▲ Zoom を使用し、公開県民講座では初のオンラインLIVE配信を行いました

森先生のご講演は「モネの庭」マルモッタン 20 周年を記念した特別企画です

前頁から続く



▲混雑しやすい会場入口前での検温、手指消毒も密にならない場内整理を

▼前後左右を空けた会場づくり



心外 20 周年アンケート

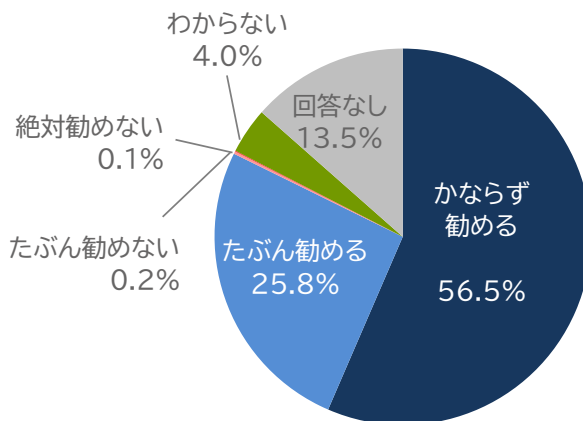
心臓血管外科 20 周年を記念して開設時から昨年 12 月までに当科で心臓もしくは大動脈手術を受けられた患者さんのアンケート結果が出ました。その中で一番最後の設問についての回答がグラフの通りです。当院からのアンケート調査ですので、

かなり好意的なお返事を頂いているとは思いますが、20 年にわたる当科での治療が患者さん、ご家族にいくらかでもご満足頂けているものと喜んでおります。循環器内科、心臓血管外科とも引き続き全国トップレベルの医療を皆様に提供していくよう頑張っていきたいと思っております。

いりえ ひろゆき

心臓血管外科 20 周年アンケートより

質問 ● 万が一、ご家族、知人が同じ心臓の病気で手術が必要となった場合、近森病院を勧めますか



n=1772

かならず勧める	1,001
たぶん勧める	457
たぶん勧めない	4
絶対勧めない	1
わからない	70
回答なし	239

12月の歳時記

ノースポール

訪問リハビリテーションちかもり
作業療法士 野村 英里

マーガレットより少し小型ですが、センターの鮮やかな黄色と白い花びらのコンストラストが可愛いお花です。



「北極」のイメージが連想されることからこの名前がついたそうです。「冬の訪れ」という意味もあるそうで、冬を象徴する花の一つです。寒さに強く、育てやすい花なのでガーデニング初心者の方にもおすすめの花です。

のむら えり

● 近森看護学校通信 48 ●

基礎看護学実習 I を終えて

専任教員 黒岩 悦子

10月中旬、1年生は初めての实習に行きました。各病院が新型コロナウイルス感染症への対応をしている中、患者さんの安全を守るため、近森会グループの協力のもと、感染対策を徹底した状態で実習を行うことができました。

学生達が患者さんと関わる事ができた時間は感染対策のため限られていましたが、ある学生は“患者さんに寄り添うことの本当の意味は細かいことに気づくことだと思います”と学んでいました。

今回実習を実施するにあたりご協力頂いた患者



さんやご家族の方々、近森会グループの皆さんに心から感謝いたします。
くろいわ えつこ

ひろっば隊の「ご近所お弁当リレー！」

土佐鮭処 おらんく家 本店

高知県高知市はりまや町 2-1-8 TEL: 088-822-4334

高知近海の魚介類を仕入れ、新鮮で美味しい！と評判のおらんく家さん。どれもえりすぐりの品々で、お持ち帰りメニューも豊富で、誌面では紹介しきれません！

詳しくはホームページへ▶▶▶



【ご注文】 昼：午前 11 時～午後 2 時まで

夜：午後 5 時～午後 11 時

※年末年始は 12 月 30 日～1 月 4 日までお休み

【お持ち帰りメニュー】

ご予算や人数に合わせてお造りできます。

季節によって内容が変わります。

ご希望により詰め合せの商品を
変えることも可能です。

にぎり盛り合わせ 1,200 円 (税抜)



おらんく家名物 太巻き 1,000 円 (税抜)



看護部 業務改善 (QC) 活動報告会

10 月 31 日

患者満足・職員満足に繋がる

活動の継続

近森オルソリハビリテーション病院 3 階病棟
看護師長 矢口 操

看護部 QC 報告会を 10 月 31 日 (土) に開催しました。QC とは、品質 (Quality) 管理 (Control) の頭文字で、品質のサービスを経済的に作り出すために病院で働くスタッフが「医療の質・安全・サービス向上をしていく改善活動」です。

今年度は 14 部署から活動報告が



ありました。最優秀賞は救命救急病棟と 5B 病棟の 2 部署で、共に業務やシステムを見直し、ベッドサイドで患者さんとの時間を長くするための活動でした。その他の部署も退院支援や業務内容・手順の見直しなどに取り組み、成果をあげることができており、とても有意義な報告会であつたと思います。

「患者さんのために」できることを考えながら今後も患者満足・職員満足に繋がる活動が継続できるよう支援していきたいと思っています。

やぐち みさお

ハッスル研修医
多くの方に支えてもらいながら

初期研修医 保地 陽輝

近森病院で研修が始まり 9 カ月が過ぎ、もうすぐ新年を迎えてしまいます。最初は不安しかありませんでしたが、今では楽しみながら研修できるようになりました。

さまざまな症例について本当に少しずつですが慣れてきて、何をしたらいいか分かるようになり、少し成長できたと感じる部分も多くなってきました。これはいろいろな職種の方がアドバイスをしてくださったり、質問に快く答えてくださるおかげだと思っています。

あと 3 カ月ほどで研修医 2 年目になり後輩たちも入ってきます。私たちがしてもらったように自分も後輩たちをサポートできるようになっていきたいと思っています。

時間が経つのはすごく早く、あっという間に 4 月を迎えそうです。理想の医師像に近づくため、さらに責任感を強く持ち、今まで学んだ知識をさらに深められるような研修を続けていけるように頑張っていきます。これからもご指導の程、宜しくお願いします。

ほぢ はるき

ご支援ありがとうございます

保育室そとに高知市より卓上型センサー式ディスペンサー、病院に国よりグローブの支援をいただきました。



	部署名	テーマ
最優秀賞	救命救急病棟 5B 病棟	集中記録用紙 (チャート) から電子カルテへきつと CUT できる! 知ってる情報いりません
優秀賞	HCU 病棟	ハイケアから始まる退院支援
敢闘賞	リハ病院 6 階病棟東	無駄なチェックを無くして患者のそばに行く時間を増やそう～ほんとに確認できましたか～

救急医としてのスキルアップを目指して

▼前列左から二人目が筆者

近森病院 救急科 平野 孝士



拠点病院でもあります。同院では優先的に Drヘリに搭乗させていただき、病院前救急対応を中心に研修を行いました。要請がかかれば数分で離陸し、現場近くのヘリポートへ向

私は2018年より近森病院で救急医として勤務しており、日々救急車の受け入れおよび救急患者さんの対応を行ってまいりました。高知医療センターにて6カ月間、幡多けんみん病院にて3カ月間の研修を行ったのでここにご報告します。

高知医療センターでの6カ月

高知医療センターは、より重症患者に特化した救急患者さんの受け入れを行っており、高知県 Drヘリの

かいます。

処置は救急車内で行うことが多いですが、場所によっては現場に直接向かい現場で処置を行います。現場での処置は時間との戦いであり、普段どおりの医療を提供することの難しさを痛感しましたが、計50件程度のフライトを行い、成長を実感することが出来ました。

幡多けんみん病院での3か月

幡多けんみん病院は、幡多地域における医療の中核となる病院であり、年間3,000件弱の救急車の受け入れを行っております。同院では救急科が存在しておらず、救急隊からの連絡を受けた看護師がトリアージを行

い、各科の医師に連絡して救急対応を行います。

私は救急科および麻酔科として同院で勤務し、各科の医師が対応していた救急車の対応を可能な限り行い、緊急手術が必要な症例に関してはそのまま麻酔科として全身麻酔を行いました。また、ICUも6床存在しており、集中治療も並行して研修を積んできました。

特色ある2病院で研修を行い、自身のスキルアップに繋がったと考えております。学んできたことを活かし、今後も高知県の医療に貢献できるよう日々邁進していきたいと思っております。

ひらの たかし

職員対象

第110回

チカモリ・シネマクラブ



お弁当拝見 89

弁当で活力を

近森病院

理学療法士 上田 優輝



私の仕事の原動力、それは「お弁当」といっても過言ではありません。野菜中心に、かつ食べ応えのあるお弁当、毎日の栄養バランスを考えて作ってくれる妻には感謝しています。

先日、もっと食べてもらいたいという



妻の提案でお弁当箱を新調しました。今はより一層満足しています。

お弁当といえど、彩り・ボリューム・味付けなど三者三様。しかし私にとって、妻のお弁当が“一番”で



す。いつも美味しいお弁当をありがとう。

うえた ゆうき

感染防止対策 地域連携相互評価



「感染防止対策地域連携相互評価」は、連携病院間で複数の実務者（医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職等）の視点で評価、アドバイスを受け感染対策を向上させることを目的に実施しています。

本年度は、独立行政法人国立病院機構高知病院の感染対策チームをお迎えし、当院の感染対策を評価していただきました。また、当院の感染対策チームは、県立あき総合病院の感染対策について確認させていただ

近森病院 看護副部長
感染管理認定看護師 近森 幹子



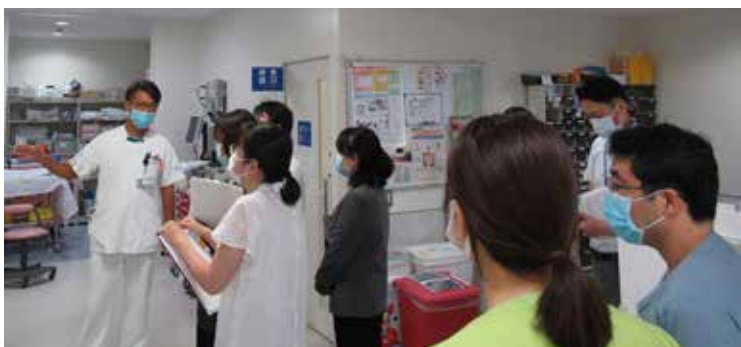
きました。

本年度は、日常行っている感染対策と併せ、COVID-19に関連した対策をテーマに現場視察、意見交換が行われました。各施設、COVID-19疑い患者さんに対応する診察室、検査部門、病棟等の構造上の問題は運用で補うなど工夫が見られました。

当院も、発熱外来の設置場所や検査部門など動線の問題を運用でカバーし、全ての患者さんが安心して受診でき

るよう努力しています。今後、インフルエンザシーズンに向けて、いかに職員の感染リスクを低減させながら診療体制を整備していくか各施設に課題がありました。今回の訪問は、これからの対策を検討するための参考となるものでした。

今後も意見交換を行いながら、感染対策の向上に努めていきたいと思えます。 ちかもり みきこ



私の趣味

渓流釣り

自然豊かで暖かい高知では、海・川と様々な魚を釣り楽しむことができます。幼いころから釣りが好きな私ですが、近年は渓流釣りにハマっています。いわゆる川の源流区域でウェーダーを履いて川に入り、大き



近森病院北館5・6階病棟 看護師 木下 蓮

な岩や時には崖をよじ登ったりと身体も頭も使うエキサイティングな釣りです。解禁後は車中泊して前泊したり、夜勤明けでそのまま向かったりと休日の多くを山奥の仁淀川で過ごす程です。よく釣りの話をすると「鮎は釣らないの？」と聞かれますが、私の渓流釣りのターゲットはアマゴ(サケ目サケ科)です。パーマークと朱点が特徴の美しい魚です。



アマゴは遊漁券が必要で、その区域の鑑札を購入し遊漁者となります。渓流釣りの魅力は沢山あり、美しい

仁淀川で大自然を感じながら没頭できる事です。また、釣りを終えたあとの温泉や野営飯などアフターフィッシング。あまり店で見かけない魚なので友達が喜んで食べてくれるのも楽しみのひとつです。手軽な釣りではないし、気候の変化も激しく危険な釣りではありますが、まだまだ魅力がありそうです。しかし、渓流で釣りをしている方は年配の方が多い印象です。エネルギッシュでイケてるおじさんと話すのも楽しいですが、同世代の釣り人募集中です。山で過ごす一日はとてもいいです。興味のある方は一緒にアマゴを狙いましょう。 きのした れん





コロナ禍における 医療安全対策地域連携訪問

医療安全管理部 看護師長 影山 美佳



医療安全対策地域連携訪問は連携する施設間で訪問を行い、評価や意見交換を通じて医療安全推進と医療安全の質向上に役立てることを目的とし平成30年度から始めました。昨年までは年3回、連携する6つの施設の医療安全管理者と対面で相互訪問の計画や意見交換などの交流会を開催していましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響にともないWebミーティングに変更し、また、半日かけて行われていた訪問も各施

設の課題にのみ焦点をあて、事前に電話やメールを活用するなど、当日の訪問時間の短縮を図るようにしました。

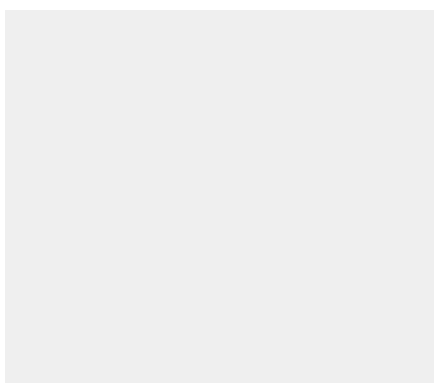
今回10月14日に、医療法人野並会高知病院へ当院OT科科长、高知医療センターの医療安全管理者とともに訪問し評価を行いました。このような時節柄ではありますが、変わ

らず医療安全活動にも積極的に取り組まれており、短い時間でしたが有意義な意見交換を行うことができました。 かげやま みか

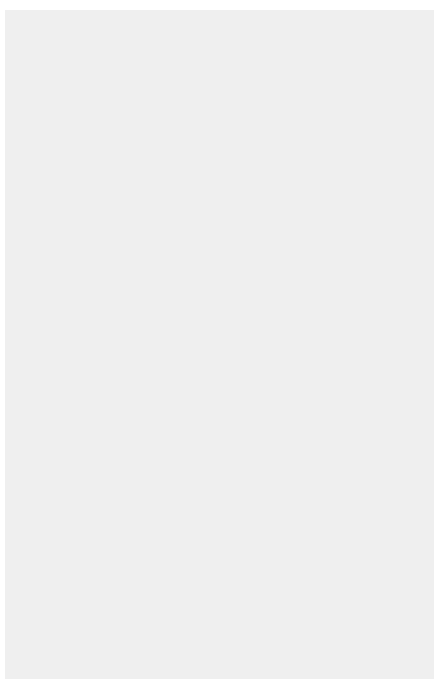


ニューフェイス

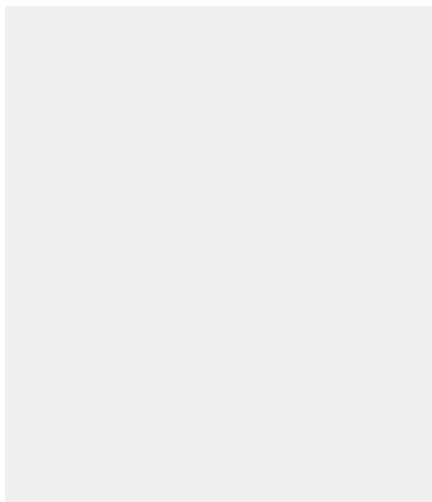
- ①所属②出身地③最終出身校
- ④自己アピールなど



人の動き 敬称略



おめでとう



2020年10月の診療数 電子カルテ管理課

近森会グループ	
外来患者数	18,268人
新入院患者数	1,089人
退院患者数	1,107人
近森病院（急性期）	
平均在院日数	12.05日
地域医療支援病院紹介率	87.23%
地域医療支援病院逆紹介率	305.05%
救急車搬入件数	555件
うち入院件数	278件
手術件数	553件
うち手術室実施	358件
うち全身麻酔件数	256件

2020年10月の出張件数

◇件数…3件 ◇延べ人数…5名

編集室通信

東京五輪イヤーだった今年。新型コロナウイルス感染症の拡大で世界は一変しましたが、季節は当たり前前に巡り、社会が一変した2020年も暮れようとしています。毎年忙しいを言い訳に大掃除や年賀状等手を抜いてきましたが、ゆっくり新しい年を迎えることができる現状に感謝して、しっかり準備をしたいと思っています。

DRIVE IN THEATER



地域で楽しむ 新しい映画体験を子ども達に

社会福祉法人 ファミーユ高知 高知ハビリテーリングセンター
児童・地域部 放課後等デイサービス KUL 主任 安岡 航

2020年10月18日(日)、最高の天気にも恵まれ、無事ドライブインシアターを開催することが出来ました



た。開催にあたり、高知新聞厚生文化事業団の助成やクラウドファンディングにて多くの方の支援を受け実現出来たイベントです。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

開催後は、多くのご家庭から嬉しい言葉をいただきました。

「子どもと人生で初めて一緒に映画を見ることが出来ました」、「障がいがあることで今まで諦めていた事を叶えてくれたイベントでした」など、身に余る思いです。私自身も暗闇に大きく浮かぶ美しい映像、上映後、開催へ感謝を込め一斉に行われたライトのパッシングなど、一生忘れることのない経験となったように感じます。

「乞! 熱烈応援」

子ども達の成長へ向けて



社会福祉法人 ファミーユ高知
高知ハビリテーリングセンター
児童・地域部
放課後等デイサービス KUL
主任 安岡 航

まだまだ若輩者のため、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、組織のため、そしてなにより子ども達の成長へ向けて尽力していきたいと思っています。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

やすおか わたる

リレー エッセイ

私の生活様式

株式会社エスアールエル 杉本 圭輔 氏



最近のコロナ禍で私の生活様式が一変した。新型コロナウイルス蔓延以前は週に1回は街でお酒をたしなみ、当直業務で1日は家を空け、土日に勉強会・学会が重なれば3~4日家を空ける日常であった。医療職では当然だと思うが不定休で家族との時間も共有できず、妻には感謝と謝罪の念でいっぱいであった(今も感謝しています)。しかし、現在は当直業務で週に1日家を空けるだけになった。そのおかげで最近の出来事と言えば、子供が去年の誕生日に買ってあげた自転車を約10ヶ月の練習を経て、一人で乗れるようになったことも家族と共有することができた。子供の成長を楽しみにするような年齢になったのかと違和感も

覚えるが、すごく満足感のある日常だと感じている。

新型コロナが与えた影響は甚大である。しかし、生活様式の改善・対面会議の中止・コスト意識の再認識など新型コロナが教えてくれたことも大いにあとを思っている。現状からの変化を余儀なくはされていたが、流れる当たり前に疑問を持ち、



考える機会を設け、変化があったのは危機に面したからこそその産物と考えている。今回の波及を大いに受けている飲食・接客業の方々は自分の考えている以上に大変だと思うが、私は少なくともできなくなったことを数えるより、できるように変わったことを数えて増やしていくべきだと考えている。

今後さらに大きな変化に直面するかもしれないが、私はそれを『人生の分岐点』と考え、大いに利用して、生活を変化させていきたいと考えている。

P.S でもやっぱり街に出てお酒が飲みたいです。(笑)

すぎもと けいすけ



足を守るチーム創り



第2回日本フットケア・足病医学会中国四国地方会学術集会会長
近森病院 糖尿病・内分泌代謝内科部長 公文 義雄

この度、光栄にも第2回日本フットケア・足病医学会中国四国地方会学術集会を開催させて頂いた。日本下肢救済・足病学会と日本フットケア学会が2019年本学会に統合され、第1回中国四国地方会会長の鳥取県立厚生病院浜崎尚文先生からバトンを頂いたが、COVID-19パンデミック禍で、約2カ月遅れの10月31日にWeb形式で開催できた。

健やかに老いるサクセスフルエイジングには個人の自立が不可欠で、足は重要な臓器の一つである。足病学は日本では隙間の領域であり、卓越した医師の技能を優秀なスタッフ

が支えて医療チームを創っている。実情は地域で異なるがその発展にはチーム医療の充実が必要である。今回は最新のトピックをお聴かせ頂き、チーム創りを討論して頂いた。

COVID-19で社会環境は変化し学会の在り方も変わった。自室でのWeb聴講は便利で仕事後や休日の「時間外勤務」であった。本会では北海道から沖縄までこれまでにない多くのご参加を頂き、アイデア次第でWebは味方にもなった。

最後に開催に御尽力頂いた

代表世話人をはじめ関連の先生方に深謝致します。特に資金面でお支え頂いた各社製薬会社様、献身的にサポート頂いた当院の秘書には最大の賛辞で敬意を表します。

くもん よしたか



新人看護師 院外研修 11月14日、28日



“今だからこそ”のつながりを 新人看護師院外研修

看護部 キャリア開発課 看護師長 久保 博美

五台山竹林寺での体験・牧野植物園での交流活動に行ってきました。

コロナ禍により今年度は、入職からの集合研修の縮小、従来あった配属部署での歓迎会や同期同士の集まり等のインフォーマルな場がない状況です。各部署の育成支援を受けながら成長途上ですが、上記状況が影響してか心的負担が高まっている様子もみられていました。

▼瞑想



そこで密を避け、ざっくばらんに互いに受け入れられ・つながりあう体験になればと考え企画しました。「身体が痛かった」と苦笑していましたが、勤務時とは違う柔らかい表情が多くみられました。送り出してくれた部署に感謝しつつ、また今後もつながりあい互いに支え合いながら成長してほしいと願っています。

くぼ ひろみ

▼写経



● 職員対象 ●

インフルエンザワクチン 接種実施

「感染症をうつさない、うつされないために」近森会グループでは福利厚生、および近森会健康保険組合の保健事業の一環として毎年行っています。例年は大会場に一齐に集まり行っていましたが、今年は接種場所・時間を分散し、3密対策を徹底行っていました。



心臓リハ移動のお知らせ

北館1階から総合心療センター2階痛みのクリニック跡に移動しました。

